

## 学校法人神谷学園 平成26年度事業計画書 目次

1. はじめに	
・ 平成26年度 事業計画の策定にあたって .....	1
2. 基本方針	
・ 基本方針 .....	2
3. 主要事業計画	
(1) 教学の質の向上と教育研究組織の充実化 .....	2
(2) 管理運営の充実・強化 .....	7
(3) 財政の確立と効率的な資産配分の実施 .....	9
(4) 特色ある教育事業の実施など .....	11
(5) 教育環境の整備・充実について .....	11
・ 東海学院大学・大学院、東海学院大学短期大学部	
・ 東海第一幼稚園、東海第二幼稚園	

## 1. はじめに

・平成26年度事業計画策定にあたって

理事長 神谷 眞弓子

平成24年末に誕生した安倍新政権は、積極的な金融緩和と財政政策によってデフレ脱却を果たし、安定的な経済成長を目指す政策を前面に押し出しました。平成25年度の日本経済の姿は、「世界経済の緩やかな回復が期待される中で、様々な施策の推進等により、着実な需要の発現雇用創出が見込まれ、国内需要主導で回復が進む」とされ、国内総生産の実質経済成長率も2.5%程度が見込まれています。欧州の政府債務問題、海外経済に含まれる不確実性、為替市場の動向、電力供給の制約等、先行きリスクとなる要因もある中で、景気回復が進みつつあります。このような日本の経済情勢の中で、将来の人材を育成する意味で最も大きな役割を果たしている大学に対して、平成24年6月には文部科学省より「大学改革実行プラン」が掲げられ、「社会との関わりの中で、新しい大学づくりに向けた改革を迅速かつ強力に推進するために、Ⅰ. 激しく変化する社会における大学の機能の再構築、Ⅱ. 大学の機能の再構築のための大学ガバナンスの充実・強化していくこと」を今後大学が取り組むべき方向とすることが明確にされました。また、中央教育審議会が平成24年8月にまとめた「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」では、「学士課程教育の質的転換に向けて」として、「①質的転換の好循環を作り出す始点としての学修時間の増加・確保、②教員中心の授業科目の編成から学位プログラムとして、組織的・体系的な教育課程への転換」のための様々な方策が明示されました。本学園には創立50年の東海学院大学短期大学部（旧東海女子短期大学）と30年余を迎えた東海学院大学（旧東海女子大学）があり、これまで35,000人以上の卒業生を社会に送り出してきましたが、前述の実行プランと答申を真摯に受け止め、これまでの本大学の学士課程教育の在り方を厳密に再点検し、「専門知識として持つだけでなく、それが実際に社会で役立つための教育」、また、「社会への適応力や実践力が身につく教養教育」の徹底という目標に向けて、昨年に引き続き、平成26年度も全学を挙げて改革と充実化に取り組むたいと考えております。

本学園は本年、短期大学部が開学50周年を迎え、平成26年2月16日にはささやかながら開学50周年記念式典を挙行し、在校生、卒業生、行政、企業の方々等、長年お世話になってきた多くの関係の方々に温かいお言葉とともにお祝いをしていただくことが出来ました。近年の少子化による学生数を確保することの困難さや、短期大学においてはその方向性そのものが模索されている段階であることなど、私立大学の経営環境は年々非常に厳しい状況となってきております。このような現実にも本学園も危機感を持ち、前述の実行プラン等を見据え、本大学の掲げる理念・目的を具体化する教育理念や学部学科の教育目標の内容の精査と充実化を一層推進し、教育研究組織の編成・実施に努め、またそのための管理運営組織の効果的活動を促進し、以て日本社会に優れた人材を送り出すことのできる高等教

育機関として一層の教育の質の向上に取り組んでまいりたいと考えております。また、平成27年度には、東海学院大学及び東海学院大学短期大学部は第三者評価を受審いたしますので、今年度は、このための自己点検作業も重要な活動の一つとなって参ります。

本学園は平成25年度の事業計画を踏襲して、中央教育審議会の提言や文部科学省の「大学改革実行プラン」の計画の趣旨を真摯に受け止め、様々の教育改革や事業を展開する過程にあると自負しております。平成26年事業計画の内容も、引き続き、国家の推進する教育振興基本計画の意向に適うものとして構築しましたことをご報告してご挨拶いたします。

## 2. 基本方針

### ・基本方針

平成26年度は、昨年の事業計画に引き続き、大学改革実行プランと答申に掲げられた指標に向けて、全学的な教学と管理運営状況のチェックや課題の洗い出しを行い、自己点検評価活動とも協同してその改善や発展に努めていきます。

## 3. 主要事業計画

本年度の事業計画の策定にあたっては、教育を取り巻く現況を十分に踏まえた上で、本学園が掲げる目標を達成するため、また各学校が抱える課題を早急に解決し、実行プランに適う教育環境づくりのため、以下の(1)～(5)に挙げることを基本方針としていきます。

### (1) 教学の質の向上と教育研究組織の充実化

#### 【短期大学部・大学・大学院】

### ・短期大学部

平成25年度に児童教育学科の募集停止が認められ、新学科の申請認可により、平成26年度からは新しい幼児教育学科に「子ども医療」「子ども音楽」「子ども心理」「子ども体育」の4つの領域の学びが選択学習でき、特徴ある幼稚園教員、保育士が目指せる教育内容へと改編がされました。平成26年度予定の指定保育士養成人数の定員増変更も、100名から150名へと増員が認められました。短期大学部においては、今後も開学以来受け継がれる校風を“凛としたしなやかさ”という言葉に具体的に表現しながら、自己の得意なそれぞれの分野で、現実社会で起こるいろいろな問題の解決や、ひとり立ちができる実学的な学びを展開していく中で子どもをより深く理解できる保育者の育成が可能な教育課程と教員組織編成に努めます。社会における短期大学部の機能の再構築のため、以下のような取り組みを推進していきます。

・平成24年度に全面的改正を行った新学則に基づき、準学士としての課程教育前の入

試改革、カリキュラムの中身の吟味、教員の教育力など資質の向上、学習時間の延長などの学習環境の充実、100%に近い就職率の中で一層の就職指導強化、全体を通じてのキャリア教育など、さまざまな教学全般の整備により短期大学としての教育の質的向上に努めていきます。

・また、平成26年度に4年制大学で実行されたメディカル・プログラムに関連して、平成27年度に短期大学部での医療分野の新しい学科の新設を構想、計画、推進していきます。

#### ・東海学院大学

平成25年度内には、総合福祉学部管理栄養学科（旧名称食健康栄養学科）の申請認可、平成26年度開設予定であった同学科臨床検査技師養成課程、同学部における臨床工学技士、人間関係学部における救急救命士、言語聴覚士の養成課程、など、地域社会や志願者のニーズ等に対応しうる全学的な学部・学科等の再編成を課題とした結果、大きな医療関係の養成課程の設置認可が次々と実現されました。その他、学是「ひとづくり」に表現されるように、入学者が、多くの実用的な資格を取得できるようなカリキュラム構成を課題とするなど、前年に引き続き、平成27年度も実社会に真に貢献する人材として、高度な技術と深い専門知識を身につけ学んだスキルを現場で生かす対応力とともに、信頼で結ばれる人間関係の形成のために「凛とした優しさ」をもつ人を育てる、という本学の崇高な教育の理念を、学部学科の教育内容や方法に浸透させていきます。

#### 具体的実施計画

##### ① 教育の質的転換と大学入試改革の推進

・中央教育審議会の答申をふまえ、全学的に「学士課程（短期大学部の短期大学士課程も本学園では含める）の質的転換」に向け前年度に続いて、平成26年度も改善を図っています。答申の主要柱である、・授業科目の整理・統合を含む教育課程の体系化、・組織的な教育の実施、・授業計画の充実、・教員中心の授業科目の編成から学位プログラムとして組織的・体系的な教育課程への転換、・全学的な組織マネジメントの確立、等を目標とし、教学組織の充実・強化計画の推進とともに、具体的には教養・専門両課程におけるカリキュラムとシラバスの整理や質的改善と教務部門の職員の知識と業務双方の向上に一層取り組みます。

##### 1. 明確なアドミッションポリシーの確立と公正な入学選抜の推進

入学者選抜実施のための制度、組織および方法に関して整備を進め、具体的には、入学試験実施専門委員会等を中心に、明確なアドミッションポリシーのもとにさまざまな入学試験により、ポリシーを理解し目的意識の高い学生を受け入れる体制を整えていきます。また、学修意欲の高い学生のためのAO入試制度の充実化を図ります。

## 2. カリキュラム改革及び教育の成果の PDCA

- ・ カリキュラムマップ、カリキュラムフローチャートを活用し、新しい全学共通教育カリキュラムの策定作業を継続していきます。
- ・ カリキュラムフローチャートやこれまでに蓄積されたデータに基づき、部局等ごとに一貫した学士課程教育、有機的に連携したカリキュラムを構築することで、シラバスの改善、履修指導の一層の充実等を実現します。
- ・ 成績評価の実態を把握し、成績評価の厳格化や公正化を進め質の高い学士教育に努めるため、シラバスの到達目標との整合性を検証するとともに、検証結果を教職員で共有を図り改善していくことを推進します。
- ・ 学士課程教育の質的向上のため、授業内容および方法の改善については長年努力を図ってきましたが、前年度には、FD 活動の拠点組織としての大学教育研究開発センターが立ち上げられ、「授業の相互参観」による教員の能力開発活動が一層進みました。26年度も引き続き、学内一般公開型相互授業参観の実現や外部の FD 研修会への積極的参加等の研鑽を積んでいきます。

## 3. 学生への支援に関する目標の達成

- ・ 学生個々に大学生生活の目標を持たせるため、ポートフォリオを導入し、ポートフォリオに基づく指導に教員・職員が一体となって取り組みについて検討します。
- ・ 学生の社会人力育成の一環として、地域の諸活動への参加を支援します。
- ・ 保健センター、学生相談室、学生生活課等の学内関係組織の有機的連携を進め、相談・支援体制の充実を図ります。
- ・ 健康診断時に新入生と在学生のメンタルヘルスに関連したスクリーニングを実施し、健康教育や保健指導、あるいは治療への早期導入などの必要な対応を行います。
- ・ 課外活動施設の安全点検を実施し整備計画を推進します。
- ・ 日本学生支援機構以外の奨学金への応募に対する支援を充実させていきます。
- ・ インターンシップを活用することで県内での就業体験を推進します。
- ・ キャリア教育科目の一層の充実を図り、豊富な資格取得を可能にしていきます。
- ・ 就職支援については、平成 23 年度より外部人材を招聘し、キャリア支援体制の強化を図っていますが、充実した入学初年度から卒業までの一貫したキャリア支援プログラムの実施を通して学生の就職活動を支援し、また従来不十分であった地元受け入れ企業への訪問活動を強化し企業との安定したパイプ作りを進めていきます。

## 4. 研究科における研究の推進

- ・ 前々年度より実社会の人材養成目的を効果的に達成できる大学院組織の在り方について検討を続けていますが、院生の語学力や国際的研究能力を高める授業の推進を図る他、社会人や留学生の受け入れも図るため、入学広報も活性化を検討します。

## 5. 評価の充実に関する目標の達成

- ・ 大学評価を効率的かつ効果的に実施する運営体制を構築するよう努めます。具体的には、大学の活動を全面的に質の向上の観点から自己点検・改善する PDCA サイクルを実践し、様々な大学活動の現状分析を行い、検証と結果の学内共有化とフィードバックの仕組みを強化していくほか、大学の自己点検・改善体制の内容についても Web ページ等を通じて公開していきます。

#### 6. 情報公開や情報発信等の推進について

- ・ 短大・大学の Web ページのさらなる充実と活用を主軸として新たな広報活動の展開を実施します。また、短大・大学の Web ページにおいて、より利用しやすいものとなるよう改善するとともに公開する情報の内容を充実させます。

#### 7. 研究水準及び研究の成果等に関する目標の達成

- ・ 短期大学及び大学の研究力強化の視点から、平成 25 年度には学術研究機構が新設されました。平成 26 年もこの研究機構の活発な活動により、教員の研究力強化促進のため支援を行っていきます。
- ・ 研究者の相違や自発性に基づく研究やプロジェクト型研究に対する支援体制をさらに強化し、特に医療分野における地域社会や地域行政、産業との組織的な連携を図ります。
- ・ 英文広報誌を含めた研究成果広報体制について検討します。

#### ・ 幼稚園

幼稚園では、少子化や経済状況が悪化する中で、安定した入園者を確保するため、入園者や保護者のニーズに応え、地域社会、行政への存在意義を高めるための有意義な教育計画を策定し、これに基づいて魅力的で特色ある教育内容を編成し、従来以上に幼稚園としての教育力を高めるための努力を、施設や教育環境の整備を含めて進めていきます。またこれらの実施にあたっては、短期大学部・大学の教育研究組織と積極的に連携し、推進します。以下に附属幼稚園である、東海第一幼稚園および東海第二幼稚園の平成 26 年度事業計画を挙げます。

#### ・ 東海第一幼稚園

教育・研究における重点事項について

##### 1. 教育方針

- ・ 豊かな自然や広い運動場でのびのび育つ子どもを目指し、「よく聞き、よく見て、よく考える子」、「思いやりのあるやさしい子」、「じょうぶでひとりだちできる子」を目標としています。

##### 2. 主な年間行事

1 学期 入園式、家庭訪問、移動動物園、遠足、保育参観、個人懇談会、お泊り保育、夏祭り、子育て支援（年間を通じて）、中学生の職業体験

2 学期 祖父母参観、信長祭り参加、運動会、大学祭参加、作品展、遠足、もちつき大

会、お楽しみ会（クリスマス）

3学期 人形劇、節分会、個人懇談会、はっぴょうかい、お別れ遠足、お別れ会、卒園式

### 3. その他

- ・東海学院大学人間関係学部、東海学院大学短期大学部 幼児教育学科との連携による、教育相談や子育て支援等の活動を実施します。
- ・未就園児教室「ちびっこ広場アイアイ」の遊びの会の充実、園庭開放や各種行事に地域住民の参加を積極的に呼びかけていきます。未就園児を対象としたイベント等に専門知識をもった外部講師を登用し、充実を図ります。
- ・東海学院大学地域サポートセンターの食育支援による、「食育」及び給食内容の充実を図ります。
- ・ダイレクトメール、ポスター掲示、ホームページ、あそびの森、東海えほんの森などを活用して、さまざまな方法で園児募集活動を実施する。また保護者（在園・卒園児）の協力も得て、園児募集活動を推進します。
- ・フォト新聞をクラス毎に刊行し、保護者に配布します。

平成 26 年 5 月 1 日 園児予定数（平成 25 年 12 月 7 日現在）

	満 3 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
平成 26 年度	0	44	43	43	130

### ・東海第二幼稚園

#### 1. 教育、研究における重点事項について

##### 1. 教育方針

##### イ やさしい子の育成

友達や先生とかかわって遊ぶ楽しさを味わい、思いやりの心を育てます。

##### ロ じょうぶな子の育成

伸び伸びと体を動かして遊び、身体中で表現する楽しさが分かるような教育を行います。

##### ハ 心ゆたかな子の育成

恵まれた環境に親しみ、感じたことや考えたことを豊かに表現できる教育を目指します。

##### その他

◎携帯を使ったメールシステム『E 通信』を活用します。

- ・在園児には、行事の写真を添付し様子をお知らせします。
- ・未就園児には、催し物の情報を伝えます。

◎各学期末にフォト新聞をクラス毎に刊行し、保護者に配布します。

◎毎月の園だよりで月の予定や、毎週の学年だよりで園児の姿や保育内容を知らせ、保護者との共通理解を図ります。

◎年間を通して、子育て支援をしていきます。(延長保育、預かり保育)

◎子育て相談員の資格をとり、色々な悩みに対応できるようにします。

## 2. 主な年間行事

1 学期 家庭訪問、遠足、ふれあい参観、陶芸教室、個人懇談、お泊まり保育、保育参観、歯科・内科健診、避難訓練(地震)、連れ去り防止教室

2 学期 運動会、遠足、作品展、クリスマス会、餅つき、親子守口大根収穫体験、個人懇談、いもほり、落ち葉拾い、どんぐり拾い、避難訓練(火災)、老人施設訪問、清眺台公園清掃

3 学期 ふれあい参観(凧あげ)、鬼見学、豆まき、学習発表会、お別れ遠足、お別れ会、保育参観

## 3. 園児数予想

年少：42人 年中：45人 年長：42人 合計 129人

平成25年12月16日現在予想人数。例年2～3月になると転園希望の問い合わせがあるので、増加する可能性もあります。

また、満3歳児教室を3歳児との混合より、単独教室に開設する事により、満3歳児の人数が、24年度期末4人から25年度期末は10人(予定)となります。26年度も単独教室を予定しておりますので、期末には10人の園児数増加を予想しております。

大学改革実行プランの2つめの柱は、「大学の機能の再構築のための大学ガバナンスの充実・強化」であります。本学では再構築のための制度や方法など、システムや基盤の整備に前年に引き続き、以下のように取り組んでいきます。

### (2) 管理運営の充実・強化

- ・本学園の教育機能は、前年より、「何を教えたか」から、「学んだことが即社会で実践できる力を養うための教育」へと創立期の教育の原点に立ち返る努力をしてきました。そしてこういった教育機能は、教員と事務職員が協働することによってはじめて十分



にその能力を発揮することから、教員と協働できる事務職員を育成するために、1. 事務職員の役割と職務の確認、2. 縦割りの業務や組織による弊害の除去、3. 事務職員の常設の意思決定機関・検討機関に正式なメンバーとしての参画、決定と執行にかかわる責任の所在の明確化、4. 目的と情報、危機感と課題、成果と評価、一体感の事務職員同士、あるいは教員との共有、5. 中間管理職・監督職・中堅の役割と活動が充実、6. 自己啓発的な職員の存在、また学園内外に学びのネットワークがある、等の条件の整備に努めながら以下の活動を行っていきます。

・組織の充実・強化のための活動

①東海学院大学短期大学部及び東海学院大学における教学組織及び事務組織の充実化・強化の推進

- ・平成25年4月から東海学院大学短期大学部及び東海学院大学において、大幅に改正された新学則が施行されましたが、これにより、両大学で教授会、役職者会議、各委員会をはじめとして教学の意思決定とプロセスの大幅な改良と、これに関連する規程・規則の整備が現在急速にその効果を発揮し始めています。また事務組織においても、「学士課程の質的転換」を実行していくための組織の再編成、業務内容の点検と改良、有能な事務職員の積極的な登用および人材育成等と、これに関連する規則の新設や改正を行っています。26年度も引き続きこの作業を全学的に推し進め、「新たな未来を築くための実力ある大学づくり」を目指して組織の充実・強化に努めます。
- ・職員の能力向上については、基本研修と授業力・事務力向上を図るため年2回程度の強化月間制度を設け、強化期間中は授業参観を通じての授業の内容や方法、事務システムについての意見交換会などにより職員同士が研鑽を重ねることの実施や、管理職研修会への参加、各大学におけるFD・SD研修の実施など努力します。

② 組織運営の改善

- ・教育研究活動を実施するための基盤的な経費を確保していきます。
- ・多様な雇用形態をもとに、学園運営に必要かつ優秀な人材を確保するとともに、教育研究機能の充実を図ります。
- ・理事会の外部理事やその他学外関係者から、大学等運営全般に係る意見を聴取します。
- ・地域との交流をさらに充実化し、学園への意見要望を収集します。
- ・定員充足状況を調査し、外部から有用な情報を取り入れ、志願者のニーズを的確に掴みながら、魅力ある学部学科における教育課程や教育方法、そのための人材確保に努力していきます。
- ・教職員の勤務意欲を高めるためのインセンティブの措置を策定します。
- ・「事務職員人材育成プログラム」を具体的に構築し、研修及び専門研修を推進し

ていきます。

- ・ 女性職員の就業を支援し、管理職にも女性職員の登用を積極的に進めます。

### ③事務等の効率化・合理化について

- ・ 業務の効率化・合理化及び業務運営の改善に資する事務組織のあり方について、前年に引き続きその効用を検証し、教育研究組織の見直しに応じて事務組織を再編します。
- ・ 情報機器及びソフトウェアの多様化に伴う業務処理の高度化に応じたコンピュータソフト利用講習会並びに複雑化するネットワーク社会の利便性、危険性についての意識向上のため、情報セキュリティ講習会を実施します。
- ・ 教務をはじめとしてコンピューター化により、事務処理等の効率化を推進します。

## (3) 財政の確立と効率的な資金配分の実施

私立大学を取り巻く環境は非常に厳しい状況が続いております。このような中で、「建学の精神」に則り、教育と研究と社会貢献を実践しながら、現在・未来に渡り付加価値の高い教育サービスの供給レベルを維持しつつ、優れた人材を日本社会に送り出すという私学ならではの使命を果たすためには、設置者である学校法人の財政の健全化が不可欠であることは言うまでもありません。

本学園の財政を支える主要な収入源は、学生生徒等納付金（71.2%）と補助金（13%）で、学生生徒等納付金については、今後より質の高い教育を提供することにより学生、園児、保護者の方々の満足度と信頼度を高めるとともに、地域社会に東海学院大学短期大学部及び東海学院大学、各付属幼稚園、英国語学学校が生み出す付加価値を活用していただく等の貢献により、学校の存在感を高めること、そして広報による募集活動のさらなる工夫などによって、入学者や入園児を確保していきます。また、平成25年度内に実現した寄附金制度の創設による収入の確保についても、引き続き取り組んでいきます。

本学園では、未来の日本社会に必要とされる専門分野での人材育成を平成24年度から模索、熟慮し、平成25年度に4年制大学において、メディカル・プログラムを推進した結果、年度内の秋季から冬季にかけて、短期大学部における保育士養成施設における定員増や総合福祉学部管理栄養学科（旧名称食健康栄養学科）の申請認可をはじめ、同学科における臨床検査技師養成課程、同学部における臨床工学技士、人間関係学部における救急救命士、言語聴覚士の養成課程、など多くの医療分野での養成課程を認めていただきました。このことは、本学園が、地域社会や志願者のニーズ等に対応しうる全学的な学部・学科等の再編成を悲願として計画を策定し、その実行に向けて邁進したことに対して一定の社会的評価を頂いた結果であり、高等教育機関としての存在意義の重要性を再認識しております。学是「ひとづくり」に謳われるように、入学者が、多くの実用的な資格を取得できるようなカリキュラム構成を課題とす

るなど、前年に引き続き、平成27年度も実社会に真に貢献する人材として、高度な技術と深い専門知識を身につけ学んだスキルを現場で生かす対応力とともに、信頼で結ばれる人間関係の形成のために「凛とした優しさ」を持つ人を育てる、という崇高な教育の理念を学部学科の教育内容や方法に貫徹させていくことで、学習目的と意欲の極めて高い学生を長期的に確保し、学生生徒等納付金による収入の安定的確保に結び付けていかねばならないと考えます。財務の公開については、学校法人が公共性の高い存在として社会に説明責任を果たすことは極めて重要であるとの認識から、今後も遵法の観点からの情報公開は言うまでもなく、インターネットの活用を通じて広く情報の提供にも努めてまいります。また前年に引き続き、①～⑥の活動を推進します。

#### ①長期財務戦略の策定

・現在の財政基盤を維持・継続し、今年度より開始する耐震強化計画、建物改修計画、新校舎建設計画等の財源については、今後進んでいく大学改革や併設改革に伴う建物改修計画、新校舎建設計画等における財務的観点により、中長期財政計画を見直し、解決できる課題と残される課題を明示し、今後の経営戦略につなげます。

#### ②人事政策と無用なコスト削減計画の推進

・業務の洗い出しと効率化、適正な人事配置や公正な評価と効果的な報・連・相により、効率的な業務体制を整えます。また、人件費をはじめとする無駄な諸経費についても慎重に検討を行いながら見直していきます。労働法に則り短・中長期的の人員費シミュレーションを行い適正な人件費の削減を進めていきます。外部委託中の役務の一部（バスの運行や清掃、食堂等）に係る費用については、無駄のないよう努め、教育サービスの低下につながる面は徹底的に回避しながら良質な水準を維持しつつ、適切なコスト削減を図っていく方針です。

また、現状の奨学金制度については、アドミッションポリシーに適合しうる方策を施行しつつ、募集に影響を与えないように考慮しつつ着実に削減計画を進めていきます。

#### ③外部資金獲得計画

・外部資金について、短期大学部、大学の共通の組織である研究機構を拠点として、科研費や各種外部競争的資金の獲得に向けて一層努力します。寄付金制度による外部資金の獲得は、短期大学部において創立50周年を中心とする募金活動を実施しましたが、現在のところ予想を上回るような大きな成果とはなっていませんが、引き続きホームページでの広報の充実などにより周知を図っていきます。

#### ④資産の運用管理の改善について

・前年度に引き続き、資産を適切に維持・管理し、有効活用を図ります。資産運用に

よる資金獲得という手段については、平成25年度10月に制定した新しい資産運用規程に基づき、理事会や経営協議会、評議委員会での慎重な審議のもと、リスクの非常に低い、流動性の高い安全な資産運用に努めていきます。

#### (4) 特色ある教育事業の実施など

平成24年6月の「大学改革実行プラン」においては、「激しく変化する社会における大学の機能の再構築」に向けて大学の方策の一つとして、・地域再生の核となる大学づくりが掲げられています。これまで、東海学院大学においては「東海えほんの森」活動による自治体や地域住民との交流、一般向け公開講座の実施、スポーツ部員の国体参加や、東海学院大学短期大学部においては「遊びの森」活動による地域の父母を中心とした教育啓蒙活動、生涯学習センターなどの地域貢献や、図書館や教室、体育施、トレーニングジム、学食、喫茶店等一部施設の一般開放など、大学の知的資源やハード資源を社会に活用してもらうべく努力を常日頃実践してきました。医療分野の養成課程設置や豊富な資格取得のためのカリキュラムの再構築など、今後も、建学の精神に則った特色ある従来の教育研究活動を実践しつつ、将来の社会や時代の要請に応じた新規の活動にも取り組むことによって、地域や行政の方々の評価と理解を得て、地域から「信頼される大学」となるような学校づくりを目指します。本学園は、県内初の私立大学として、地域から寄せられる信頼の念と親しみの情を礎に、高等教育・研究のみならず、文化、芸術、厚生など多方面に亘る活動を通じて地域と行政の方々との絆を深めていくことも重要な使命と捉えています。平成年度26年度も市民の方々の声に謙虚に耳を傾け、要望、意向を酌みとり、それを教育、研究に反映させるという姿勢を保ち続けることを地域貢献活動の共通目標としていきます。

##### ・広報の強化

平成24年以降のホームページのアクセス数は益々増加の傾向にあります。今後は内容の充実を図り、ホームページへの誘導として、インターネット広告や新たにソーシャルメディアを活用した広報を展開する準備も行います。具体的な地域連携活動を広く周知する一方、オープンキャンパスにおいても関連イベントを行い、広報とオープンキャンパスを連動させることで、広報の積極的な展開を行っていきます。

#### (5) 教育環境の整備・充実について

前年度に続き、平成26年度も進行中の建物の耐震補強工事等とともに、短大・大学の教育が効果的に展開できるように、短大・大学の建物改修を図るとともに、学園施設整備を検討し、今後の長期財務戦略と連携した大規模施設改修計画の策定を進めます。

なお、平成26年度学園の設置する学校及び定員は下記の通りです。

【東海学院大学】

・大学院	人間関係学研究科	臨床心理学専攻	入学定員	7人	収容定員	14人
			<hr/>			
・健康福祉学部	総合福祉学科	入学定員	80人	収容定員	340人	
	管理栄養学科	入学定員	80人	収容定員	320人	
		計	180人	計	660人	
・人間関係学部	心理学科	入学定員	110人	収容定員	480人	
		(3年次編入学定員	20人)			
	子ども発達学科	入学定員	80人	収容定員	320人	
		計	190人	計	800人	

【東海学院大学短期大学部】

・幼児教育学科	入学定員	150人	収容定員	300人
	計	150人	計	300人

【東海学院大学附属、東海学院大学短期大学部附属】

・東海第一幼稚園	1年保育	115人
	2年保育	115人
	3年保育	110人
	計	340人
・東海第二幼稚園	1年保育	55人
	2年保育	55人
	3年保育	50人
	計	160人

以下に各学校の教育・設備環境整備についての平成26年度の施行事業計画事項を及び附属幼稚園における各教育方針に基づく平成26年度の実施計画及び施設・設備整備について順次掲示いたします。

① 東海学院大学・東海学院大学大学院・東海学院大学短期大学部

## 1. 大学本部施設管理関連

- ・ 図書館コンピュータシステムのリプレイス
- ・ 図書館3階空調機修理
- ・ 「東海えほんの森」管理運営およびイベント企画
- ・ 平成26年度図書館資料購入
- ・ ピアノの調律・修理
- ・ 教室への固定式プロジェクターの設置
- ・ ICT教育用パソコンシステムの継続利用
- ・ 学内ネットワークサーバーシステム再構築
- ・ 本館棟非常階段改修工事
- ・ 本館井水高架水槽取替工事
- ・ 非常用放送設備取替工事
- ・ 構内山林区域環境整備事業（樹木等伐採）
- ・ 本館棟耐震改修事業
- ・ 「授業料免除・徴収猶予規則」に基づく授業料減免事業
- ・ 特定クラブ等への活動費助成
- ・ 「学生生活支援特別入試」に基づく入学金・授業料減免事業
- ・ 求人検索「求人NAVI」システムの運用

### 短期大学部

- ・ 特定クラブ等への活動費助成
- ・ 学生便覧、シラバス作成配布
- ・ 学生用ピアノ修繕
- ・ ピアノレッスン室ドア・壁等修繕
- ・ 教育用ピアノ調律
- ・ 第2学生寮4階の雨漏り修繕及び改修
- ・ 「学生生活支援特別入試」に基づく入学金・授業料減免事業
- ・ 7号館空調設備の取替工事
- ・ ホッケーグラウンドの電気設備修繕工事

## ②東海第一幼稚園

### 施設・設備の整備

- ・ 園舎屋上東側防水シート全体張替とそれに伴う保育室の天井ボードシミ部分張替

## ③東海第二幼稚園

### 主な施設・設備整備

- ・ 玄関底上雨漏れ防水シート全張替
- ・ 園舎屋上東側防水シート全張替
- ・ 給食室エレベーター修理
- ・ プールサイドフェンス取替工事
- ・ 保育室床張替工事（2教室）
- ・ 給食室食器棚取替工事
- ・ 水道管修理工事
- ・ その他の建物・施設関係の改修工事
- ・ 募集要項・パンフレット印刷費